

# 新素材と新技術の展示会『エヌプラス』東京ビッグサイトで開催

## 出展申込受付中 ものづくり技術革新を提案する展示会

ものづくりの展示会「エヌプラス2026」が、11月11日(水)から13日(金)まで、東京ビッグサイト東ホールで開催される。現在、事務局では出展申込の受付を継続している。

本展示会は、「新素材」と「新技術」をテーマに、製造業の研究開発・設計・生産技術分野を対象とした複合展示会である。展示構成は「高機能化」「加工技術」「DX」「リサイクル」「改善」の5領域、15のキーワード展示会で構成される。来場者の中心は、自動車、航空宇宙、電子機器、化学、素材、機械、エネルギーなど幅広い業界の研究開発、設計、生産技術、製造、調達部門の担当者である。新製品開発や技術課題の解決を目的に来場する割合が高く、出展各社にとっては新規顧客開拓や共同開発、技術提携につながる実践的な商談の場となっている。

出展に関する問い合わせが継続していることから、事務局では7月以降も出展募集を継続している。展示スペースには限りがあるものの、空き状況に応じて順次出展相談に対応していく予定であり、次年度に向けた新たなビジネス機会を求めめる企業の参加を呼びかけている。

### ものづくりの商談展示会「エヌプラス」とは

エヌプラスは、高機能材料や先端加工技術、DX、環境対応技術などをテーマとした製造業向け展示会として、多くの研究開発・設計・生産技術担当者が集う場となっている。

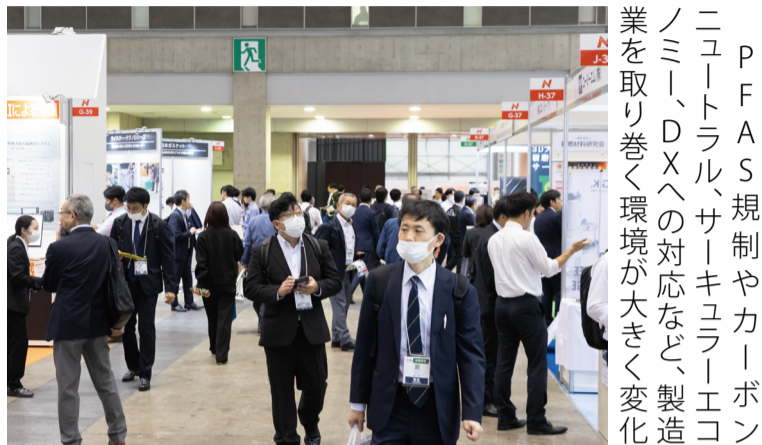
前回開催では、自動車、電子機器、化学、素材など幅広い業界から来場者が集まり、来場目的として最も多かったのは新製品・新技術の情報収集であった。特に研究開発部門の来場比率が約3割と高く、技術課題の解決や新製品開発に向けた具体的な情報収集の場として活用されている。

来場者からは、「技術相談や比較検討を通じて開発の方向性を検討できた」「想定していなかった技術との出会いが新たなアイデアにつながった」といった声が寄せられている。

エヌプラスは、高機能材料や先端加工技術、DX、環境対応技術などをテーマとした製造業向け展示会として、多くの研究開発・設計・生産技術担当者が集う場となっている。

前回開催では、自動車、電子機器、化学、素材など幅広い業界から来場者が集まり、来場目的として最も多かったのは新製品・新技術の情報収集であった。特に研究開発部門の来場比率が約3割と高く、技術課題の解決や新製品開発に向けた具体的な情報収集の場として活用されている。

来場者からは、「技術相談や比較検討を通じて開発の方向性を検討できた」「想定していなかった技術との出会いが新たなアイデアにつながった」といった声が寄せられている。



エヌプラスでは、高機能化、加工技術、DX、リサイクル、改善をテーマとした15のキーワード展示会を展開する。材料、加工、装置、研究開発支援など幅広い技術提案が集結する。

ものづくりの高機能化を提案する分野は本展の大きな特徴の1つである。新素材・代替材展では、環境対応材料への関心の高まりを背景に、多様な提案が集まる。ジャパンコンポジットは環境対応型樹脂やバイオマス原料を活用したモビリティ向け成形品を展示し、SGJAPANは低誘電材料向け中空シリカを紹介する。

### 注目技術・製品が集結 15のキーワード展示会

## 高機能・高付加価値の提案にエヌプラス活用の動き

勝光山鋳業所はセルロースや木粉、牡蠣殻などを高充填した樹脂材料を提案し、西村黒鉛は黒鉛ファイバーによる熱伝導性や帯電防止性の向上を訴求する。さらに楠本化成は単層カーボンナノチューブを活用したCFRP・CFRTPの性能向上技術を、CS・TECHは異種金属を組み合わせたクラッド材によるソリューションを紹介する。三菱ケミカルの高ガスバリア樹脂EVOHや、エクシールのウレタンゲルなども注目の高機能材料として出展される。

プラスチック高機能化展では、高性能樹脂や複合材料が集結する。佐久間特殊鋼はリサイクル炭素繊維を活用したCFRPペレットを展示し、日本ガスケットはリサイクル炭素繊維による低LCA型CFRP部品を提案する。クラスターテクノロジーは耐薬品性、摺動性などの機能性を持つコンパウンド材を、レジノカラー工業は透明性と熱線遮蔽性を両立する近赤外線吸収マスタバッチを出展する。大明化学工業はベーマイトや高純度アルミナなどの機能性原料を紹介し、パシフィックビームは抗菌・防カビ機能を付与する添加剤を提案する。また、材料開発を支える評価・分析技術も見逃せない。東北電子産業は有機材料の酸化劣化測定システムを、新東科学はフィルムや塗膜の耐久性評価試験機を展示する。

機能性フィルム展では、フィルム製造に関わる材料・装置・サービスが集まる。フジコピアンは新製品「基材レスディスプレイ」を提案する。黒崎播磨はフィルムや

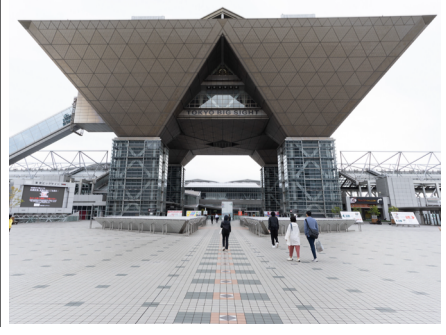
### キーワード展示会一覧

<b>高機能化</b> 次世代製品に求められる新素材・代替材と用途開発を提案 <b>新素材・代替材展</b>	プラスチック・ゴム等の高機能化と循環利用を提案 <b>プラスチック高機能化展</b>
軽量化・高強度化を実現する材料、成形技術、新素材の提案 <b>軽量化・高強度化展</b>	接着・接合技術によるマルチマテリアル化と製品設計の自由度向上を提案 <b>接着・接合展</b>
製品の機能性・耐久性・意匠性を高める表面処理技術を提案 <b>コーティング・表面処理展</b>	高性能化が進む製品に不可欠な電磁波対策・熱対策技術を提案 <b>電磁波対策・放熱技術展</b>
植物由来のセルロースナノファイバー材料と用途開発を提案 <b>セルロースナノファイバー展</b>	紙・パルプ・不織布の高機能化と新用途創出を提案 <b>不織布・機能紙展</b>
フィルム・シート材料の機能性向上と応用技術を提案 <b>機能性フィルム展</b>	
<b>加工技術</b> 設計自由度と生産効率を高める3Dプリント・精密成形技術を提案 <b>3Dプリンター・精密成形展</b>	製品開発を支える受託製造・試作・加工技術を提案 <b>受託製造・試作技術展</b>
<b>DX</b> デジタル技術による製品開発プロセスの高度化・効率化を提案 <b>製品開発DX展</b>	生産現場の可視化・最適化を実現する製造DX技術を提案 <b>製造プロセスDX展</b>
<b>リサイクル</b> 資源循環を前提としたリサイクル技術と循環型ものづくりを提案 <b>リサイクル・循環型ものづくり展</b>	<b>改善</b> 安全・快適・省エネ工場環境づくりを支援する技術を提案 <b>工場環境改善展</b>

金属箔を非接触で搬送する浮上搬送装置を展示し生産工程の品質向上に貢献する技術を紹介する。ネオテクノロジーは特許情報を活用した技術調査サービスを提案し研究開発部門の情報収集を支援する。

電磁波対策・放熱技術展では、電子機器の高性能化やデータセンター需要の拡大を背景に関心が高まる。大阪ガスは多層グラフェンを、虹技はメタルファイバーを複合した高熱伝導・電磁波シールド材料を展示する。日本黒鉛商事は黒鉛粉末や黒鉛分散体、加工製品を紹介し、放熱や導電用途への展開を提案する。さらに、セルロースナノファイバー展では日本製紙のセルロースナノファイバーやセルロース関連製品、写真化学の攪拌・脱泡装置が出展。コーティング・表面処理展では、丸真製作所のPVDコーティング、魁半導体の超撥水・超親水プラズマ処理、倉敷ボーリング機工の溶射技術、ライスター・テクノロジーの赤外線加熱技術など、高品質・高効率に貢献する技術が紹介される。

材料開発から、評価、加工、製造プロセスまでを俯瞰できることがエヌプラスの特徴である。研究開発、設計、生産技術部門にとって、技術課題の解決策や開発のヒントを得られる場として期待が高まっている。



# 素材・加工技術だけではない「エヌプラス2026」注目の新キーワード



**工場環境改善展**  
人手不足・安全対策・省エネ——製造現場の課題解決が集結

人手不足への対応や熱中症対策の義務化、省エネルギー化など、製造現場を取り巻く課題は多様化している。新設された「工場環境改善展」では、生産性向上と職場環境改善を実現する技術・サービスを紹介する。近年、多くの工場では品質不良や歩留まり低下の原因となる粉塵や静電気への対策が重要なテーマとなっている。今回出展する**数内産業**は、除塵・除電システム「イオンクリーンボックス」を紹介。製品表面や部品に付着する微細な異物を効率的に除去し、電子部品やフィルム、樹脂成形品など高品質が求められる製造現場を支援する。品質向上と作業効率改善を両立するソリューションとして注目される。

会場ではこのほか、省エネ化、安全対策、自動化支援、作業環境改善に関する製品・サービスを募集する。工場建屋の老朽化対策やBCP（事業継続計画）、設備保全の効率化なども重要なテーマだ。生産技術、設備保全、工場管理部門の来場が見込まれ、現場課題の解決につながる提案の場として期待されている。

**リサイクル・循環型ものづくり展**  
「つくる」から「循環させる」へ 製造業の新たな競争力

カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーへの対応を背景に、製造業でも資源循環を前提とした製品開発や生産体制の構築が求められている。「リサイクル・循環型ものづくり展」では、再生材活用技術やリサイクルプロセス、資源循環型設計など、循環型社会の実現に向けた技術を紹介する。

**製品開発DX展**  
開発現場の知見を資産に変える データソリューション

製造業のDXは、生産現場だけでなく研究開発や設計業務へと広がっている。実験データの活用、技術伝承、開発期間短縮といった課題への対応が求められる中、「製品開発DX展」ではAI、M（マテリアル）ズインフォマティクス、データ活用基盤など、開発力向上を支援するソリューションが集結する。

**注目企業の AC Biode**  
は、触媒と水を利用した独自のケミカルリサイクル技術を提案する。混合プラスチックや多層フィルム、汚れを含む廃プラスチック、有機廃棄物などを180〜280℃の比較的低温で分解し、モノマーや水素、一酸化炭素、メタン、アルコール、有機酸などの化学原料へ転換する技術である。従来リサイクルが難しかった廃棄物の資源化を可能にする技術として注目される。

近年は自動車、電機、包装材料、建材など幅広い分野で再生材利用やLCA評価への対応が進み、リサイクル技術そのものが競争力の源泉となりつつある。環境対応をコストではなく新たな付加価値として捉える企業にとって、本展は新規顧客との出会いや異業種連携の機会を創出する場となるだろう。

**データケミカル**は、実験・製造データのAI解析ツールを紹介する。化学構造や実験条件の予測、異常検知モデル構築などをプログラミング不要で実現できるほか、教育コンテンツも備え、現場技術者によるデータ活用を支援する。

また、**KNIT**はSEMや画像をアップロードするだけで、粒径や面積、円形度など80項目以上を自動解析するクラウドサービスを提供。従来は人手に頼っていた画像評価業務の効率化と標準化を実現する。

本展は研究開発部門、設計部門、生産技術部門にとって、開発スピードと品質向上を両立するための最新技術を比較検討できる場となる。

エヌプラス2026では、業界団体や研究機関と連携した共同出展パビリオンを大幅に拡充する。各分野を代表する団体が中心となり、会員企業や関連企業が集結することで、技術動向や市場課題を俯瞰できる展示エリアを形成する。

継続開催となる「機能性フィルム研究会パビリオン」では、高性能フィルムや粘着・コーティング技術、加工技術などの最新動向を紹介する。近年は電池、電子デバイス、半導体、モビリティ分野で機能性フィルムへの期待が高まっており、材料メーカーから加工メーカーまで幅広い企業の



R&Dシステム基盤「RCM」をはじめ、実験データベースや解析支援ツールを展示。研究現場に蓄積された知見の有効活用を提案する。

「**日本不織布協会パビリオン**」では、不織布・機能紙分野の最新技術が集まる。衛生材料、フィルター、産業資材、環境関連用途など、不織布市場の広がりを背景に、多様な用途提案が期待される。前回は会員企業14社もの出展があり、業界関係者から高い注目を集めた。

また、「**名古屋大学ナショナルコンポジットセンター (NCC)**」によるパビリオンでは、CFRPをはじめとする先進複合材料の研究開発成果や産学連携プロジェクトを紹介する。航空宇宙、自動車、産業機器など幅広い分野で軽量化ニーズが高まる中、複合材料の社会実装を支える技術交流の場となる。

さらに今回は新たな共同出展企画として、「**ファイラー研究会**」「**日本マグネシウム協会**」「**PFA S対策技術コンソーシアム**」が加わる予定だ。

**ファイラー研究会パビリオン**では、樹脂・ゴム・塗料・接着剤などの性能向上を支えるファイラー材料や分散技術、評価技術などを紹介。既に多くの会員企業が出展を表明しており、近年注目される熱対策や導電性付与、軽量化への対応など、高機能材料開発の基盤技術が集まっている。

**日本マグネシウム協会パビ**



参加が見込まれる。「**日本不織布協会パビリオン**」では、不織布・機能紙分野の最新技術が集まる。衛生材料、フィルター、産業資材、環境関連用途など、不織布市場の広がりを背景に、多様な用途提案が期待される。前回は会員企業14社もの出展があり、業界関係者から高い注目を集めた。

また、「**名古屋大学ナショナルコンポジットセンター (NCC)**」によるパビリオンでは、CFRPをはじめとする先進複合材料の研究開発成果や産学連携プロジェクトを紹介する。航空宇宙、自動車、産業機器など幅広い分野で軽量化ニーズが高まる中、複合材料の社会実装を支える技術交流の場となる。

さらに今回は新たな共同出展企画として、「**ファイラー研究会**」「**日本マグネシウム協会**」「**PFA S対策技術コンソーシアム**」が加わる予定だ。

**ファイラー研究会パビリオン**では、樹脂・ゴム・塗料・接着剤などの性能向上を支えるファイラー材料や分散技術、評価技術などを紹介。既に多くの会員企業が出展を表明しており、近年注目される熱対策や導電性付与、軽量化への対応など、高機能材料開発の基盤技術が集まっている。

**日本マグネシウム協会パビ**

**エヌプラスを知る Q&A**

**Q1 開催回数は**  
A 2010年スタート 今年で17回目 一貫して東京ビッグサイトで開催を続けてきた

**Q2 展示会の長所は**  
A ものづくりに関わる5領域、15のキーワード別展示会で構成 生産・製品開発の課題に対するソリューションが集まる

**Q3 開催規模は**  
A 東京ビッグサイト東2ホール内で開催 154社出展、9,583名来場 (2025実績)

**Q4 どのような来場層なのか**  
A 自動車、電装、化学、航空・宇宙、等あらゆるメーカー 来場者の7割が製造業。その中でも開発・研究部門の割合が高い

**Q5 同時期他展示会開催は**  
A 「FOOD展」を併催。東2ホール間で相互入場を実施予定 食品メーカーや工場関係者へのマッチングにも期待

**Q6 すぐに出席検討可否の結論が難しい**  
A 状況により対応可。まずは事務局に連絡して欲しい

**Q7 事前に小間位置が選べるのか、小間レイアウトが見たい**  
A 締切後よりレイアウト着手。出展者へ8月に一斉公開予定

**Q8 パッケージ装飾・オプション備品の価格が知りたい**  
A 本年度の装飾カタログを提供可能。まずは事務局に連絡して欲しい

**2022** ものづくりとモビリティに新たな価値をプラスする **N-PLUS** New Values for New MOBILITIES & MONOZUKURI

**2026** 「New」「Next」をプラスする新素材・新技術展

リオンでは、非常に軽量な実用金属であるマグネシウムの活用技術を発信する。輸送機器の軽量化や脱炭素化への関心が高まる中、次世代構造材料としてのマグネシウムへの期待は大きく、加工技術や用途開発を含めた展示が期待される。

**PFA S対策技術コンソーシアムパビリオン**では、国内外で規制強化が進むPFA Sへの対応技術を紹介する。代替材料、分析・評価技術、除去・回収技術など、製造業各分野に共通する課題に対するソリューションを募集した。

この他にも幾らかの業界団体で共同出展パビリオンを企画中である。各パビリオンは単独出展とは異なり、専門分野ごとの集積効果によって来場者の関心を



**出展申込受付中！詳しくは事務局までお問い合わせください。**  
TEL : 03-3503-7621 E-mail:office@n-plus.biz